

2020年3月2日

高等教育キーパーソン各位

大学での学びの言語基盤—

## 日本語力の測定・評価と教育プログラムの深化策

～ I R T 診断テストの実際／教材・授業方法の工夫／教員の資質・力量 ～

3月23日（月）開催

ご参画・ご派遣のお願い

学習言語としての日本語力は、外国人留学生のみならず、日本人学生にとっても、大学での学び・授業理解における言語基盤となります。

日本人学生に対するリメディアル教育としての日本語教育への取組みも、すでに20年余となっております。近年では、学修の全期間における言語リテラシーのフォローが課題となっております。また、約800校の日本語教育機関や大学留学生別科・センターで学ぶ留学生への教育プログラムの質保証・向上等が急務となっております。そのためには日本語教員の量的拡大と質向上のための養成・FD活動が最重要となります。

文化審議会国語分科会は、昨年3月に『日本語教育人材の養成・研修の在り方（勧告）＜改訂版＞』を取りまとめるとともに、現在、日本語教育小委員会の中に、2つのWGを設置し、具体方策の検討を進めております。

「日本語教育能力の判定WG」では、国家資格である「公認日本語教師（仮）」の創設、「日本語教育の標準WG」においては、欧州評議会のCEFRを参考にして「日本語教育の参照枠」の作成に着手しております。

本セミナーでは、小野博氏（日本リメディアル教育学会ファウンダー）に、30年余にわたり小・中・高校生及び大学生への日本語力・英語力の各種調査を実施し、大学生用のI R Tテストを開発してこられた実践研究者の立場から、「日本語力と授業理解」についての基調となる講義をいただきます。

大学入学後の基礎学力判定として活用されている「日本語・英語I R T診断テスト」の概要・特色とその実施・活用状況について、（株）NHKエデュケーショナル及び（株）エヌ・ティ・エスの担当者から紹介と報告をいただきます。

馬場眞知子氏（東京農工大学／J A D E前日本語部会長）からは、日本人大学生の日本語力の現状と課題、リメディアル教育及び外国人留学生対象の日本語教育プログラムの実際、A I時代に求められる力について報告・論展いただきます。

田中佳子氏及び河住有希子氏からは日本工業大学における日本人学生と留学生への日本語教育の実践事例を踏まえて、授業理解力とは、学習言語力としての日本語育成方略、教材と授業方法、教員の資質と力量について、報告・論展いただきます。

李在鎬氏（早稲田大学）からは、「日本語教育を主専攻とする独立大学院」としての20年余において、780名超の修士取得者と70名余の博士取得者を輩出している日本語教育研究拠点としての取組みを報告いただきます。同大学日本語教育研究センターでは、約200人の日本語教員が週600コマ以上の日本語クラスを運営しております。日本語教育の教員・研究者の養成とその質保証について、論展いただきます。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。  
パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/200323.pdf>